



# 営農NEWS



## ハクサイ軟腐病やべと病、アブラムシ類、オオタバコガなどの防除を徹底しましょう

ハクサイ栽培では、8月後半から多雨や日照不足が続く、更に「台風18号」による圃場冠水などで、病害の発生しやすい圃場環境となっています。

病害虫発生予報10月号（県病害虫防除所）によりますと、9月下旬現在、ハクサイ軟腐病およびべと病の発生時期は平年より早く、発生量はやや多い状況です。

また、アブラムシ類の発生量は平年より多く、オオタバコガの寄生幼虫数は平年並の状況になっています。

軟腐病は、強い降雨や風、台風などで葉柄等に傷ができたり、虫の食害痕、管理作業のときの傷口等から感染しやすく、多湿でやや高温気味のときに発病進展します。これら条件のときには、薬剤の予防散布を行いましょう。

また、べと病や白斑病は、結球開始前にも発病しますが、主には結球期以降にやや低温で多湿条件が続くと発病進展します。圃場をよく観察して、初期防除に努めてください。

さらに、アブラムシ類は直接的な吸汁害の他に、有翅虫がウイルス病を媒介しますので、早めの防除が必要になります。また、オオタバコガやハスモンヨトウは、結球葉に潜入する前に防除を徹底してください。

### 【病害防除のポイント】

- 1 多湿な圃場環境は、発病を助長しますので、排水対策など改善に努めてください。
- 2 薬剤散布にあたっては、株元や下葉、葉裏にも薬剤が十分かかるよう丁寧に散布することが重要です。
- 3 防除薬剤は、下記を参考にハクサイの収穫前日数に十分注意してください。

表1 ハクサイ軟腐病の主な防除薬剤（平成27年10月7日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内
カセット水和剤	1,000倍	収穫21日前まで / 2回以内
アグリマイシン-100	1,500~3,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
Zボルドー	500倍	- / -

表2 ハクサイべと病、白斑病、黒斑病の主な防除薬剤（平成27年10月7日現在）

薬剤名	べと病	白斑病	黒斑病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ダコニール1000	○	○	○	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
ペンコゼブ水和剤	○	○	○	600倍	収穫30日前まで / 1回
プロポーズ顆粒水和剤	○	○	○	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内
ストロビーフロアブル	○	○	○	3,000倍	収穫3日前まで / 3回以内
ランマンフロアブル	○			2,000倍	収穫3日前まで / 4回以内
ホライズンドライフロアブル	○			2,500~5,000倍	収穫14日前まで / 3回以内
ロブラール水和剤		○	○	1,000~1,500倍	収穫14日前まで / 3回以内
トップジンM水和剤		○		1,500倍	収穫7日前まで / 2回以内

表3 ハクサイ アブラムシ類の主な防除薬剤（平成27年10月7日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
ウララDF	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 2回以内
コルト顆粒水和剤	4,000倍	収穫3日前まで / 3回以内
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	収穫3日前まで / 2回以内

表4 ハクサイ オオタバコガの主な防除薬剤（平成27年10月7日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アニキ乳剤	1,000~2,000倍	収穫3日前まで / 3回以内
フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
プレオフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで / 2回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040